

「北海道の有する食料供給や観光の可能性を  
全国・世界に向けて開く使命を果たします。」

～ 平成22年度 北海道開発局関係事業概要 ～

平成22年4月

国土交通省 北海道開発局

## < 目 次 >

### 1. 食に関わる産業を支えます

- 全国の食を支える北海道米の生産を支援します …… 1
- 宗谷の牛乳がより安定的に全国に届けられるようになります …… 2
- 農地の排水性を向上して十勝の畑作・野菜産地を拡大します …… 3
- 世界で愛されるアイスクリームには北海道産牛乳が使用されています …… 4
- オホーツク海の安全で新鮮な水産物を提供します ……5
- 物流サービスの向上により国際競争力を高めます …… 6

### 2. 国民・道民の安全・安心を支えます

- 千歳川流域の浸水被害を軽減します …… 7
- 暴風雪・豪雪による災害発生時には、避難支援等の緊急対応を実施します …… 8
- 維持管理方法を工夫しながら道路の安全を確保します …… 9

### 3. 観光地づくりを支えます

- 外国からの北海道観光がいつでも便利になります …… 10
- 道都札幌における魅力と活力ある都心を創造します ……11
- 釧路湿原自然再生事業により、自然と共生する地域社会を形成します ……12

### [参考]

- 平成22年度北海道開発局関係予算(事業費) ……13
- 社会資本整備総合交付金について ……14  
(「あらかし ー社会資本整備総合交付金(仮称)についてー」抜粋資料)

# 全国の食を支える北海道米の生産を支援します

## 外食・中食産業における北海道米の使用

牛丼チェーン吉野家で使うご飯の半分以上が南空知産米「きらら397」です。

平成22年4月時点



冷凍食品の大手ニチレイフーズでは、ご飯もののほとんどが北海道米です。パッケージには、「北海道産きらら397使用」の文字が載っています。



大口でもしっかり品質管理された良質米を安定供給

食味ランキング

産地	品種名	ランク
新潟(魚沼)	コシヒカリ	特A
北海道(空知)	ななつぼし	A
北海道(上川)	ほしのゆめ	A
北海道(上川)	きらら397	A
新潟(下越)	コシヒカリ	A'
宮城(県北/県中)	ササニシキ	A'
秋田(県南)	あきたこまち	A'

北海道米は作付面積、収穫量とも、新潟県と全国1、2位を争っています。20年度の作付面積は7.0%、収穫量は7.3%。中でも、主食用うるち米の2/3は道外に流通しています。



由仁町「米資館」

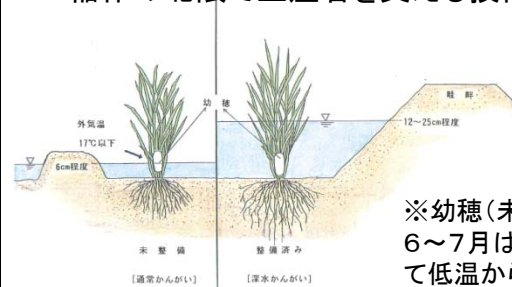


南幌町「米夢21」

※写真は南空知の穀類乾燥貯蔵施設の例

## 国による取組

稲作の北限で生産者を支える技術(※深水かんがい)



事業の実施により、良食味米の生産に必要な代かき用水、深水かんがい用水が確保され、食味、生産性の向上が図られます。

※幼穂(未熟な稲穂)が分化・成長する6~7月は、冷害危険期。水深を深くして低温から幼穂を保護します。

「深水かんがいを行える水田では、未整備水田と比較して(平年においても)確実に生育と品質に差が見られる。」(水稻農家のコメント)

国営かんがい排水事業  
「道央用水(二期、三期)地区」

(江別市外5市5町/受益面積29,010ha)

道央用水地区の水利施設は、石狩・南空知地方の農業生産力を支える重要な役割を担っています。

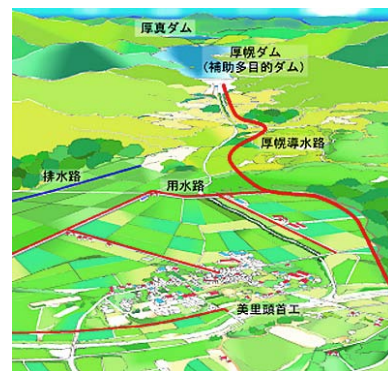
国営かんがい排水事業  
ゆうふつ  
「勇払東部地区」

(厚真町、むかわ町/受益面積3,386ha)

深水かんがい及び代かきの期間短縮に対応する不足水量は、新規水源(厚幌(あっぽろ)ダム[補助多目的ダム])に依存し、農業用排水施設の整備を実施します。



農業用水路



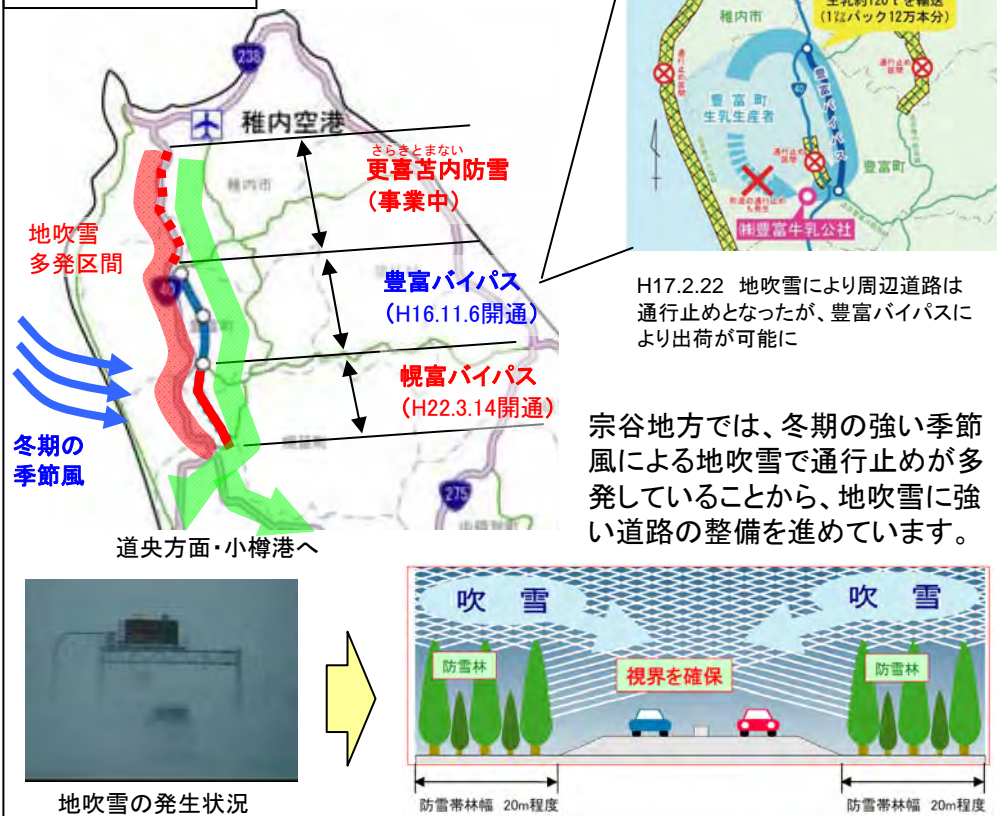
勇払東部地区概要図

# 宗谷の牛乳がより安定的に全国に届けられるようになります

豊富町、稚内市をはじめ、冷涼な宗谷管内では良質な牛乳が生産されており、道外にも年間約21,600tが運ばれています。



## 道路整備の取組

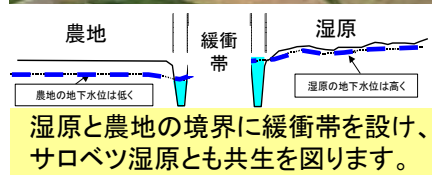
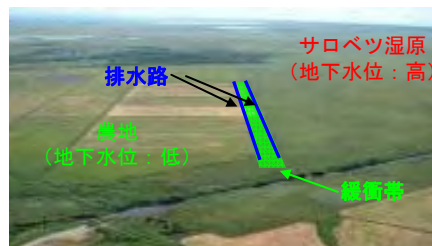
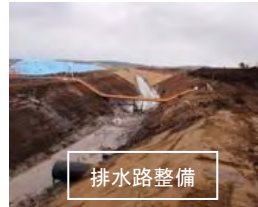


宗谷地方では、冬期の強い季節風による地吹雪で通行止めが多発していることから、地吹雪に強い道路の整備を進めています。

## 農業基盤整備の取組

### 【国営総合農地防災事業 サロベツ地区】

地域特有の泥炭地盤の沈下による凹凸の発生、排水路の機能低下、湛水被害を解消し、乳牛の飼料となる牧草の生産性を回復します。

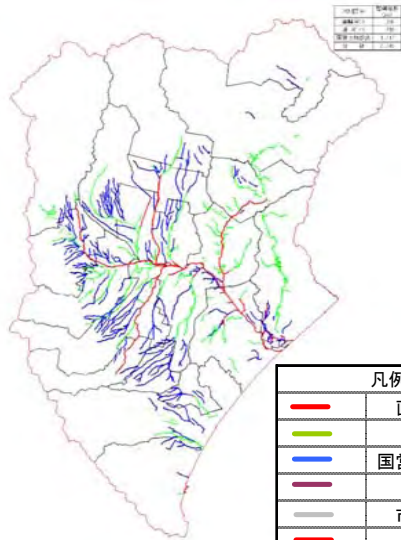


## <産地としての評価が向上>

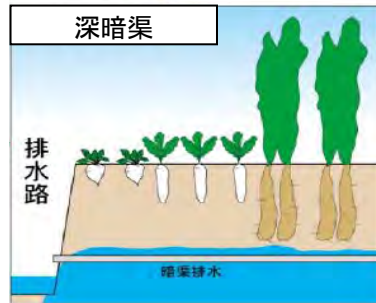
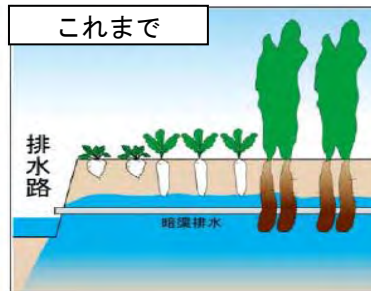
- ・冬期でも農家から消費地までの安全で安定した輸送が確保されます。
- ・更に生産技術の効率化等により、良質な農産物を低コストで安定生産できる農業経営が期待されます。

# 農地の排水性を向上して十勝の畑作・野菜産地を拡大します

国営事業等による排水路や暗渠排水の整備により、高品質の作物を効率よく生産できる大規模な畑作地帯(全国の普通畑面積の約15%)を形成



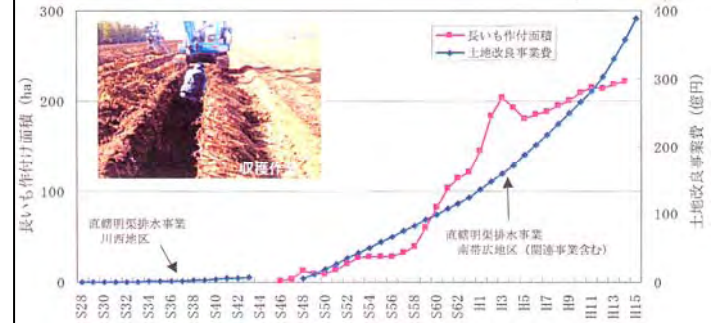
長いも導入のための整備水準の向上



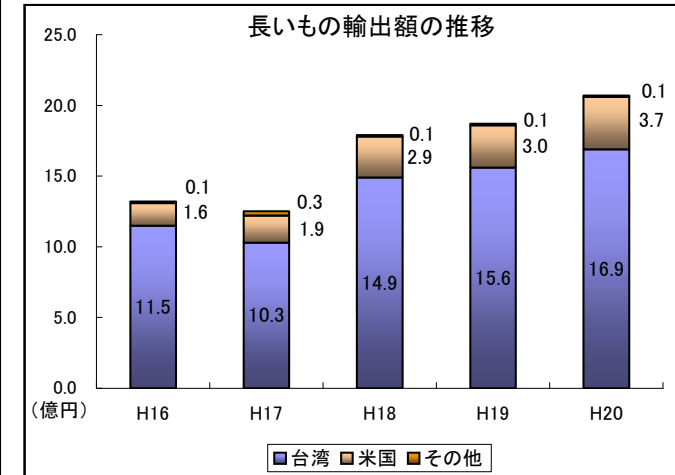
長いもは、地下120cmまで成長するため、深暗渠(150cm)等の基盤整備が不可欠。

長いも産地化の達成

長いも栽培は水捌けが重要。土地改良により作付面積を増加。



排水改良事業費の推移と、長いもの作付面積の推移



台湾では長いもは漢方薬として認知されており、地場産よりも色が白く、美味であることから高い人気を獲得しています。また、米国でも日本食ブームにより、現地の日本人や中国人による消費だけでなく、米国人もレストランで消費するなど、消費量が増加しています。

## 直轄明渠排水事業「利別川左岸地区」

受益面積: 1,014ha(畑:1,014ha)  
 関係市町村: 中川郡池田町、本別町  
 主要工事: 排水機 3箇所、排水路 5条  
 L=4.0km  
 主要作物: 小麦、てんさい、大豆、小豆、いんげん、スイートコーン、馬鈴薯、かぼちゃ、長いも、青刈りとうもろこし



# 世界で愛されるアイスクリームには北海道産牛乳が使用されています

日本でも人気の高い高級アイスクリーム「ハーゲンダッツ」の日本で製造される原料には、北海道釧路・根室地区から送られる牛乳が使用されています。

例えば浜中町では、国営かんがい排水事業「はまなか地区」の実施により循環型酪農が展開され、良質な生乳が生産されています。

質の高い新鮮な生乳は、国道44号、釧路港などを利用し、関東圏に効率的かつ迅速に輸送され、首都圏において高い評価を受けています。

## 国営環境保全型かんがい排水事業「はまなか地区」



土砂緩止林

排水調整池

遊水池

配水調整池

国営環境保全型かんがい排水事業イメージ

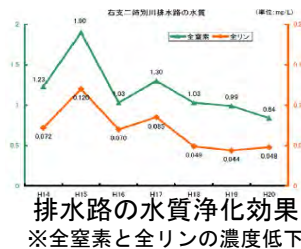
用水路整備により、ふん尿処理に要する労力の軽減や、粗飼料の生産量向上等の効果があります。

また、排水路整備により、農地のたん水、過湿被害を解消し、水質浄化機能による負荷物質の除去や、火山灰性土壌の河川・湖沼への流出防止等の効果があります。

### <環境保全型かんがい排水事業への評価>


「河川への汚濁水の流入が軽減し、魚が増えるなど河川環境が良くなっている。」（はまなか町の酪農家のコメント）

「バイカモが生息を開始するぐらい、水質が改善されていると認識している。」（沿岸部の漁協関係者のコメント）




# オホーツク海の安全で新鮮な水産物を提供します

もといねっぶ  
元稲府漁港の現状（雄武町）



- 元稲府漁港では水産物の陸揚げや選別を露天でおこなっています。
- このため、水産物の鳥害や直射日光による鮮度低下等のリスク軽減が課題になっています。



露天での水産物陸揚げ・選別作業

＜元稲府漁港の水揚量＞

平成20年水揚量 4,850トン

品名	水揚量 (トン)
ホタテ	3,570
サケ・マス	459
その他	821

（雄武漁協調べ）


国の取組

- 水産物の衛生的な取扱いを向上させる屋根付岸壁を整備します。
- ホタテ貝、サケ・マス等の水産物や施設、漁箱の洗浄等に使用する清浄海水の導入施設を整備します。



地域の取組

- 平成17年、アメリカへホタテを輸出することができるHACCP対応の加工場が供用開始（地域に3件立地）
- 屋根付岸壁と一体的な荷捌所を建設予定




冷凍ホタテ貝柱の加工状況

衛生管理型漁港

＜漁港から加工場までの地域一体での衛生管理の実施＞

＜屋根付岸壁での陸揚げ＞



漁港の衛生管理対応施設の完成イメージ図

```

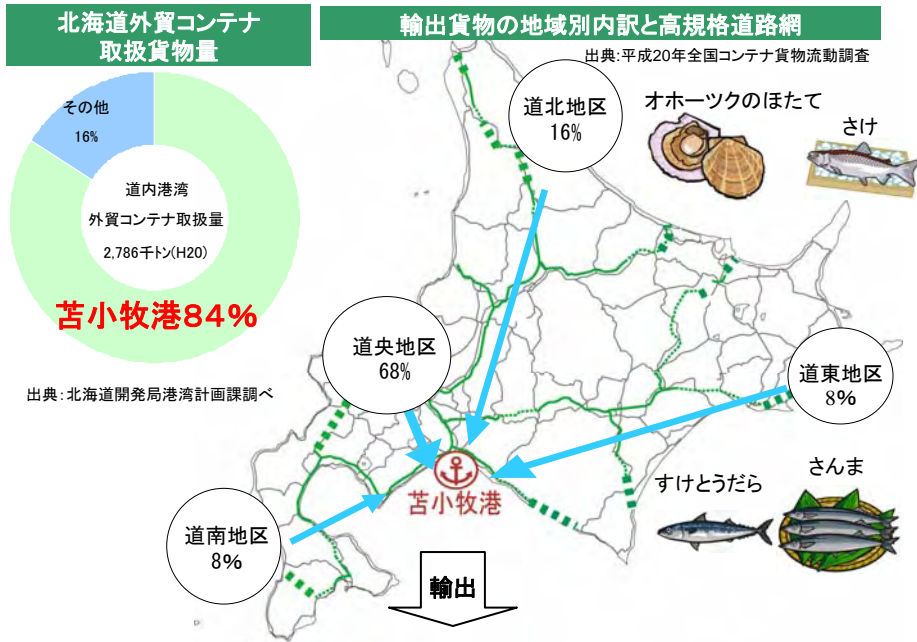
    graph LR
      A[＜荷捌所＞] --> B[＜HACCP加工場＞]
      B --> C[消費者へ]
  
```

- 安全で新鮮な水産物の提供
- 近年、年間約120tのホタテをアメリカへ輸出
- さらに、地元の漁協はEUの衛生管理基準の承認に向けて取組んでいる

# 物流サービスの向上により国際競争力を高めます

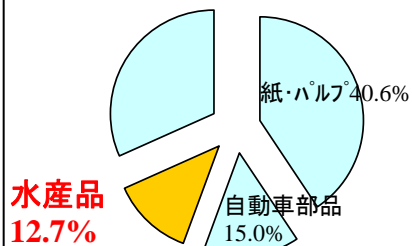
## 北海道の国際コンテナ拠点 ～苫小牧港～

全道から苫小牧港に集中する輸出用コンテナ

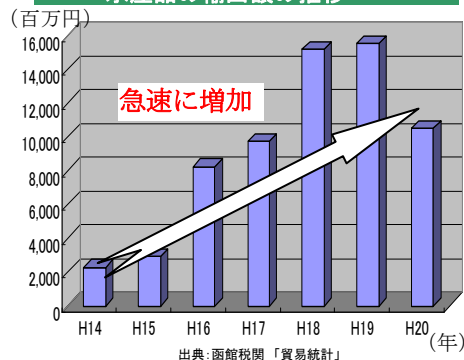


平成20年の水産品の輸出額は平成14年に比べ5倍近くに増加

### 苫小牧から輸出されるコンテナ貨物の内訳



### 函館税関苫小牧支署が扱う水産品の輸出額の推移



## 国際コンテナ輸送における苫小牧港の課題を解決

■ 西港区入船ふ頭コンテナターミナルは、容量の2倍近くのコンテナを取り扱っていたり、10時間以上の滞船が発生していた。

滞船の改善による物流サービスの向上が必要  
苫小牧東港区で国際コンテナターミナルを整備

- 平成20年8月 西港区から東港区にコンテナ機能を全面移転完了
- 平成22年4月 -12m岸壁一部供用  
現在1隻荷役→2隻同時荷役が可能に

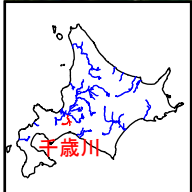




# 千歳川流域の浸水被害を軽減します

## 千歳川流域の現状

千歳川の中下流部は、広大な低平地が広がっているため、洪水時に石狩川本川の高い水位の影響を、長い区間にわたり長時間受けることから、  
**◆破堤等の危険性が高い。**  
**◆雨水の排水が十分にできない。**  
 などの水害が起きやすい特性を有している。



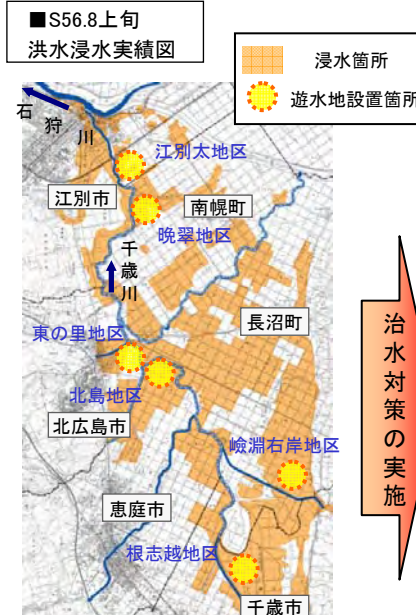
ほぼ2年に1回の頻度の水害。  
 近年においても浸水被害が頻発

千歳川流域  
 の浸水被害

北広島市街  
 浸水状況  
 (S56.8上旬洪水)



## 千歳川流域の治水対策



浸水面積 19,200ha  
 被害家屋 2,683戸

治水  
 対策  
 の  
 実  
 施

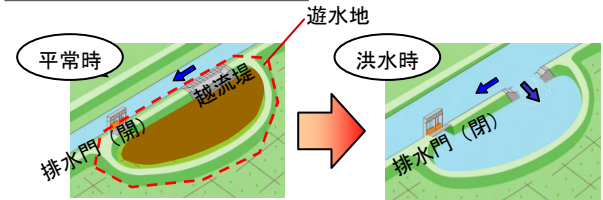
## 千歳川流域の治水対策

### 河道掘削、堤防整備



川の断面を拡幅し、洪水時の水位を下げる。  
 堤防の断面を大きくし、洪水時に長時間続く高い水位に対応する。

### 千歳川遊水地群の整備



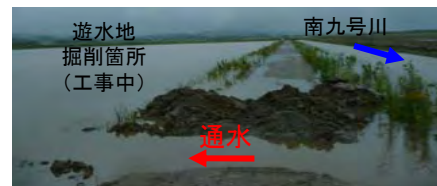
洪水時に洪水の一部を遊水地に貯留し、川の水位を下げる

### 内水対策・流域対策の促進

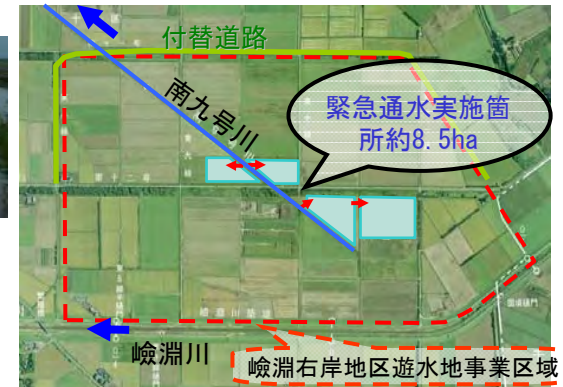
開発に伴う調整池の設置などの流出抑制対策、内水対策、  
 洪水被害軽減策等を関係機関が連携して推進する。

## 平成21年9月7日 局地的豪雨対応

千歳川流域で1日に100mmを越える局地的にまとまった雨が降り  
 浸水被害が発生した



工事中の嶮淵右岸遊水地の掘削箇所に通水して約  
 15万m<sup>3</sup>貯留し、約20haの  
 浸水被害を軽減



# 暴風雪・豪雪による災害発生時には、避難支援等の緊急対応を実施します

平成20年2月24日  
低気圧による暴風雪災害(長沼町)  
吹きだまりにより70台が立ち往生



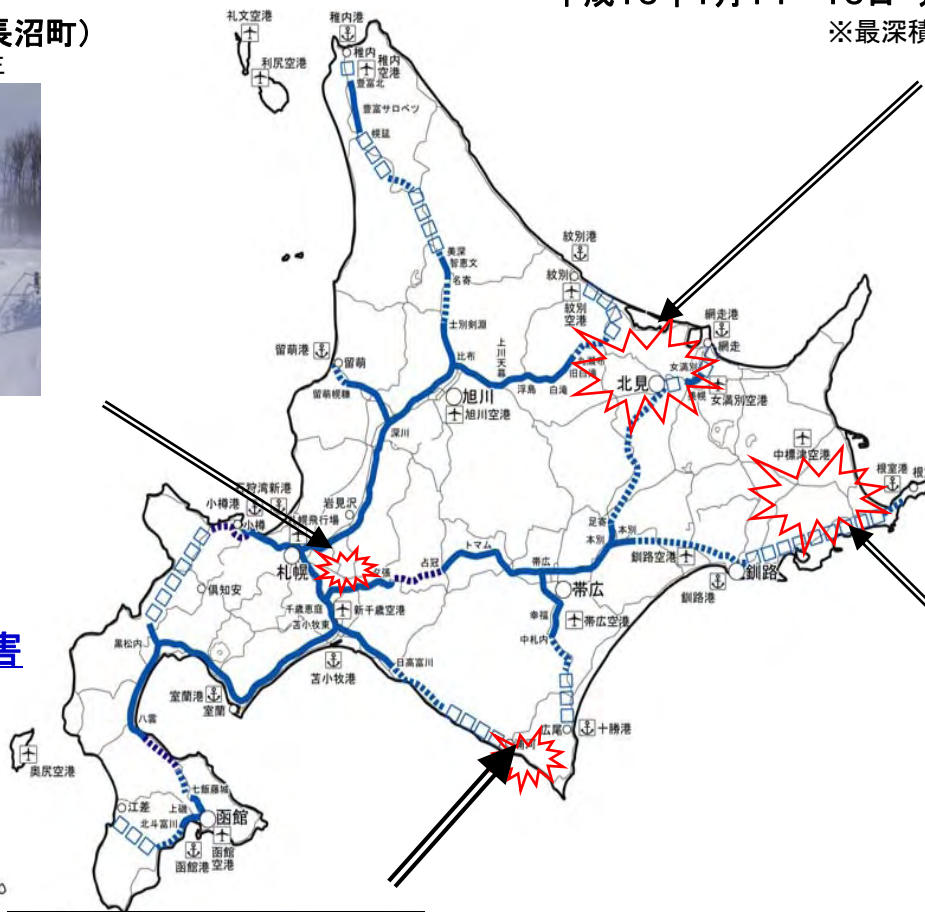
平成16年1月14~16日 道東を中心とした豪雪災害(北見等)  
※最深積雪深(観測史上最高)150年に一度の確率



平成22年1月5、6日  
低気圧による暴風雪災害  
(日高地方)

平成22年1月5、6日暴風雪  
と大雪が発生  
3路線5区間が通行止め

【国道336号えりも町】  
吹きだまりにより43台が立ち  
往生  
21:00 全面通行止め  
23:35 立ち往生車両人員  
全員122名救助  
(負傷者なし)  
翌9:00 除雪完了、通行止  
め解除  
※24h降雪量 63cm(観測  
史上最高)



平成20年4月1日  
道東を中心とした暴風雪災害  
(釧路根室地方)

7路線10区間が通行止め  
吹きだまりにより106台が立ち往生  
※降雪量、最大風速  
(4月として観測史上最高)



# 維持管理方法を工夫しながら道路の安全を確保します

巡回、清掃、除草、除雪等の各作業については、全国統一の基準により運用します。  
 又、安全安心な道路サービスを提供しつつも、更に効率的な道路管理を行うため、様々な維持管理方法の工夫をしながらコスト削減に取り組みます。

## (1) 日常管理の基準

道路の清掃や除草などは全国統一の管理基準により運用するとともに、北海道の特殊事情や地域の特性を考慮しつつ適切な道路サービスを提供するため、地域ごとに維持管理計画を作成します。

主な項目		H21実施基準	H22実施基準
通常道路巡回		1回/1日	1回/2日
路面清掃	車道(DID区間)	1~28回/年	6回/年 以内
	車道(郊外部)	1~7回/年	1回/年 以内
除草		1~2回/年	1回/年
凍結防止工		重点箇所のみ適宜 使用材料:塩化ナトリウム・塩化系混合物	重点箇所のみ適宜 使用材料:塩化ナトリウム (20mg/m <sup>2</sup> )



通常道路巡回



路面清掃



除草

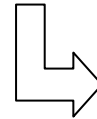


凍結防止工

## (2) 維持管理方法の工夫

道路の維持管理にあたっては、地域特性(地形・気象)や道路構造、道路の使い方などを勘案しつつ、きめ細やかな道路管理に取り組んでいきます。

舗装の「轍ぼれ」や「ひび割れ」の補修は、全面的な舗装の補修を行う前に、部分的な補修やシール剤注入による予防保全を行うなど、状況に応じたきめ細やかな管理を行います。



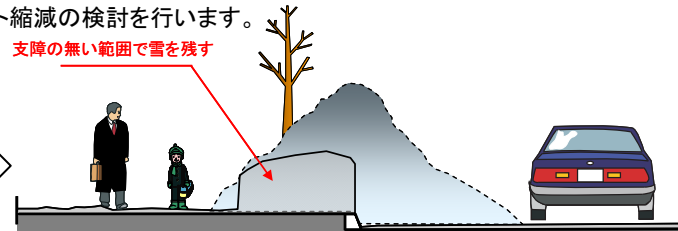
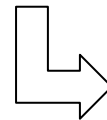
舗装の轍ぼれ箇所の局所的な補修



ひび割れ箇所のシール剤注入による延命措置

除雪によって路肩・歩道上に堆積された雪山は、すべて排雪により除去していましたが、気象条件や道路の構造によっては通行の支障のない範囲の排雪とする区間を設けるなど、コスト削減の検討を行います。

支障のない範囲で雪を残す



凍結防止剤については、カーブ区間や交差点などへの重点散布をすることにより、コスト削減に努めます。

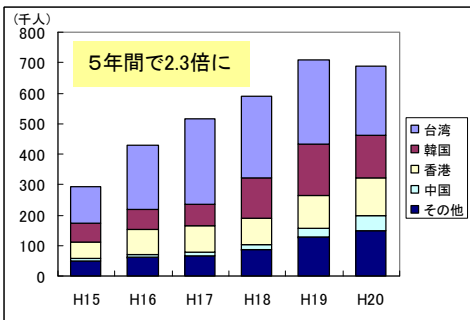


カーブ区間や交差点等へ凍結防止剤を重点散布

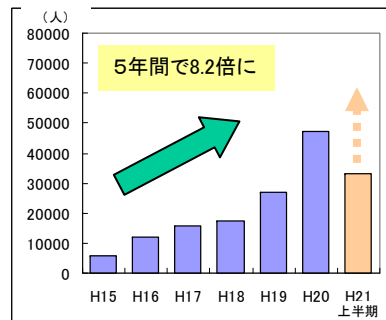
# 外国からの北海道観光がもっと便利になります

## ●近年は、北海道を訪れる外国人観光客が急増

### ■訪日外国人来道者の推移



### (うち中国人観光客)

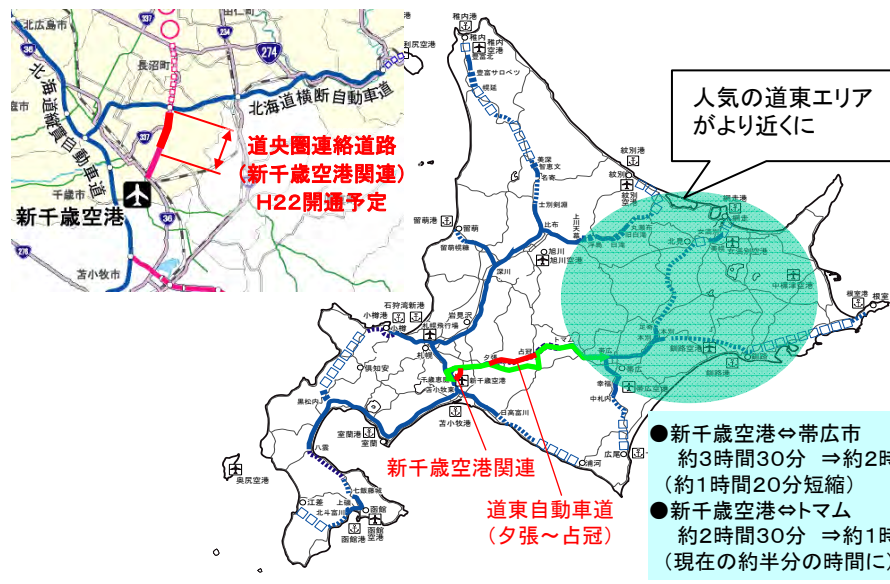


資料:北海道観光  
入込調査報告書

○平成20年には道東がロケ地となった映画が中国で大ヒットし、北海道を訪れる中国人観光客が急増

## 道路関連の取組

平成22年度道央圏連絡道路(新千歳空港関連)約7kmが開通予定  
新千歳空港と道東道が直結  
更に、平成23年度道東道(夕張~占冠)が開通予定



## 空港関連の取組

- ・新千歳空港国際線旅客ターミナルビル開業 (H22.3.26)
- ・中国・ロシア機の乗り入れ制限緩和 (H22.3.28~)

## デアイシングエプロン整備

航空機に散布される防除雪剤の効果時間切れによる再散布により、遅延・欠航が発生。また、再散布による出発便のスポット占有により到着便の遅延も発生。  
デアイシング用エプロン整備により、これらの課題を解決。

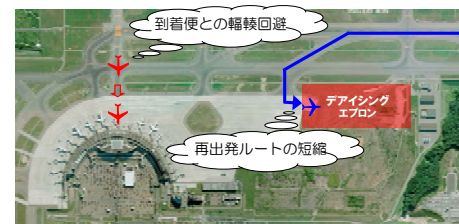


デアイシング:  
降雪時における航空機  
機除雪水作業で、ほぼ全ての便で行われている

## 現状

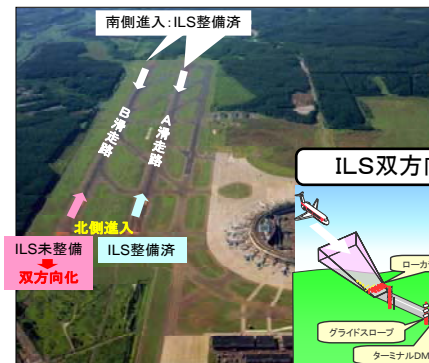


## 整備後

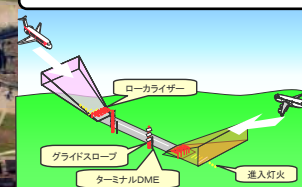


## ILS双方向化

B滑走路のILS(計器着陸装置)双方向化により、濃霧・降雪等、気象条件に影響されない安定的な就航を実現



## ILS双方向化イメージ

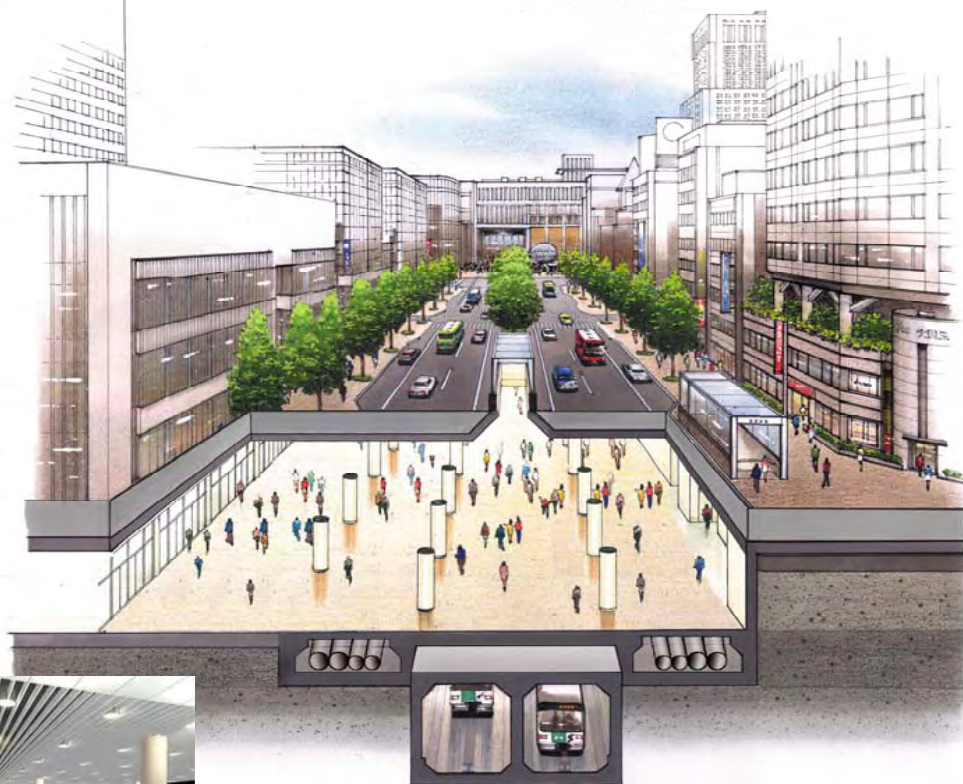


- ・空港機能の強化により寒冷地の不利な条件下でも安定した運航が可能に
- ・空港から人気の道東方面への移動時間が大幅に短縮
- ・北海道観光がもっと便利に

# 道都札幌における魅力と活力ある都心を創造します

多くの人口や多様な都市機能が集積し、北海道全体の活力を牽引する役割が求められる札幌においては、都市の魅力と活力の一層の向上を図るため、都市再生や環境負荷低減等に資する都心まちづくりが進められています。

○季節や天候に左右されない安全・快適な歩行空間を形成するとともに、札幌駅周辺と大通・すすきの地区の回遊性を向上させるため、札幌駅と地下鉄大通駅とを結ぶ地下歩行空間の整備が進められています。



札幌市施工：520m  
北海道開発局施工：160m  
(平成22年度末完成予定)

○創成川通の既設アンダーパスの連続化により生み出された地上空間を公園・親水空間とすることで、大通公園と連続する緑のネットワークの形成、東西市街地の一体化を図る整備が進められています。



地上部の公園・親水空間  
(平成22年度末完成予定)



アンダーパス連続化  
(平成21年3月供用開始)

# 釧路湿原自然再生事業により、自然と共生する地域社会を形成します

## 釧路湿原の特徴



釧路湿原

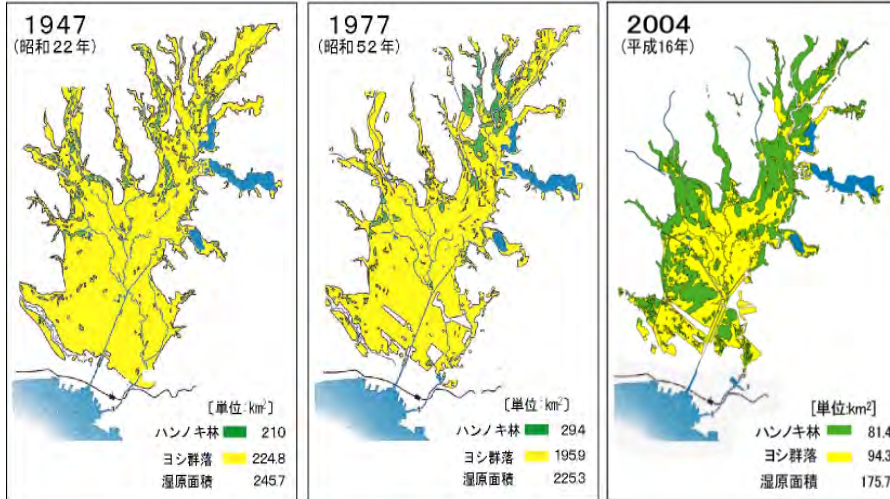


タンチョウ

- ・釧路湿原は、釧路川に沿って広がる日本最大の湿原 ～約200km<sup>2</sup>～
- ・国内最初のラムサール条約登録湿地(1980年)
- ・釧路湿原には、特別天然記念物のタンチョウや国内最大の淡水魚であるイトウなど、約2,000種の野生生物が生息するほか、オオワシ、オジロワなど多くの野鳥が飛来する

## 釧路湿原の現状と課題

<湿原植生の変化>



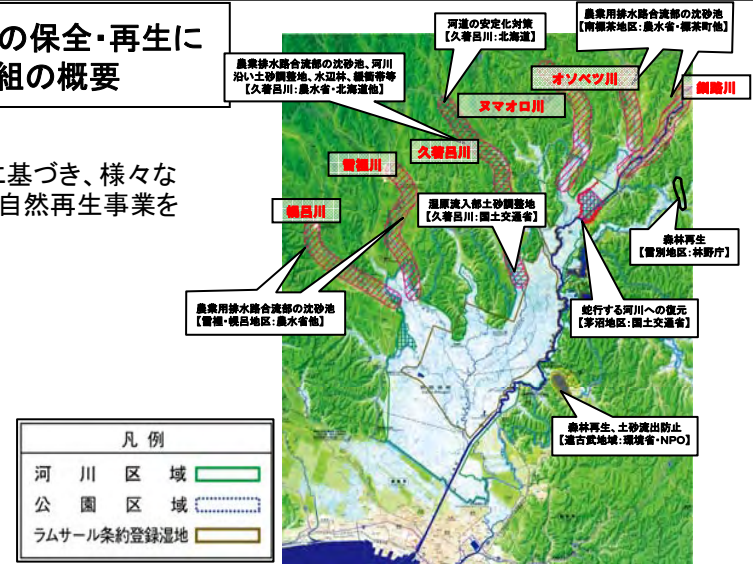
・釧路湿原周辺では、近年、量的・質的に変化が現れている

- 原因**
- ・経済活動の拡大に伴う農地・宅地開発
  - ・市街地の拡大



## 釧路湿原の保全・再生に向けた取組の概要

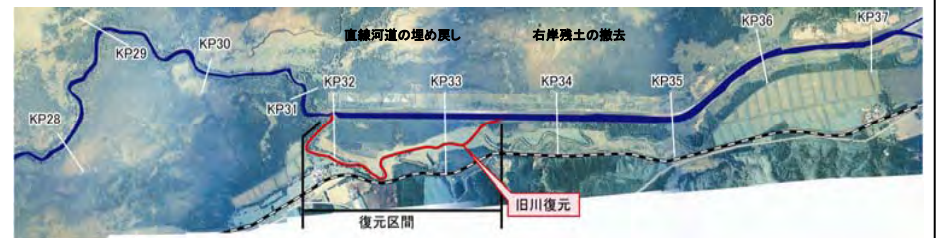
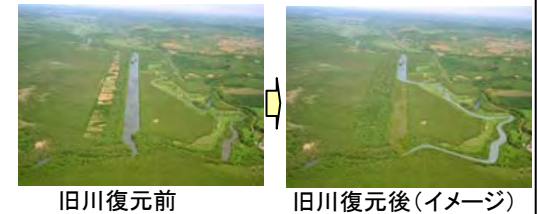
・実施計画に基づき、様々な機関により自然再生事業を実施中。



## 北海道開発局の取組

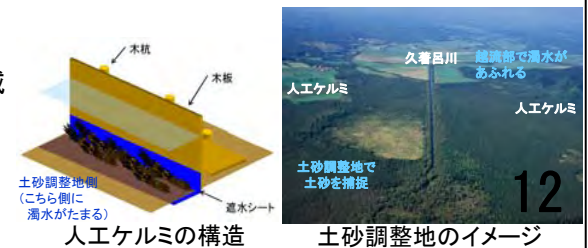
### ①茅沼地区旧川復元事業

- <目標> <効果>
- ・湿原植生の再生 ⇒ 約100ha回復
  - ・湿原中心部への土砂流出の軽減 ⇒ 約3割減



### ②土砂流入対策(久著呂川)

- <目標>
- ・湿原中心部への土砂流出軽減
- <効果>
- ・久著呂川全体での対策により湿原流入土砂量を現状から約4割軽減



[参考]

平成22年度北海道開発局関係予算(事業費)

【直轄】 (単位:百万円)

事項	H22年度予算額	H21年度予算額	前年度比 (H22/H21)	備考
治 水	73,612	83,537	0.88	
海 岸	522	551	0.95	
道 路 整 備	142,222	177,555	0.80	
港 湾 整 備	15,686	21,855	0.72	
空 港	3,296	3,410	0.97	
道 路 環 境	24,728	30,269	0.82	
都 市 水 環 境	1,179	1,729	0.68	
国 営 公 園 等	1,244	2,251	0.55	
農 業 農 村 整 備	42,739	77,050	0.55	
水 産 基 盤 整 備	14,704	18,263	0.81	
官 庁 営 繕	805	2,499	0.32	
計	320,737	418,969	0.77	

【補助】

	H22年度予算額	H21年度予算額	前年度比 (H22/H21)	備考
補助事業計	293,273	383,659	0.76	社会資本整備総合交付金を含む

【合計】

	H22年度予算額	H21年度予算額	前年度比 (H22/H21)	備考
直轄・補助事業合計	614,009	802,628	0.76	

- ※ 1. 直轄事業の予算額には農業農村整備及び水産基盤整備を除き、工事諸費及び営繕宿舍費は含まれていない。
- ※ 2. この外、北海道開発事業費には農山漁村地域整備交付金が計上されている。
- ※ 3. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
- ※ 4. 四捨五入の関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

本資料は平成 22 年 3 月 16 日国土交通省発表資料  
「あらし-社会資本整備総合交付金（仮称）について」  
から抜粋したものです。  
[http://www.mlit.go.jp/page/kanbo01\\_hy\\_000825](http://www.mlit.go.jp/page/kanbo01_hy_000825)

# あらし

## 社会資本整備総合交付金(仮称)について

---

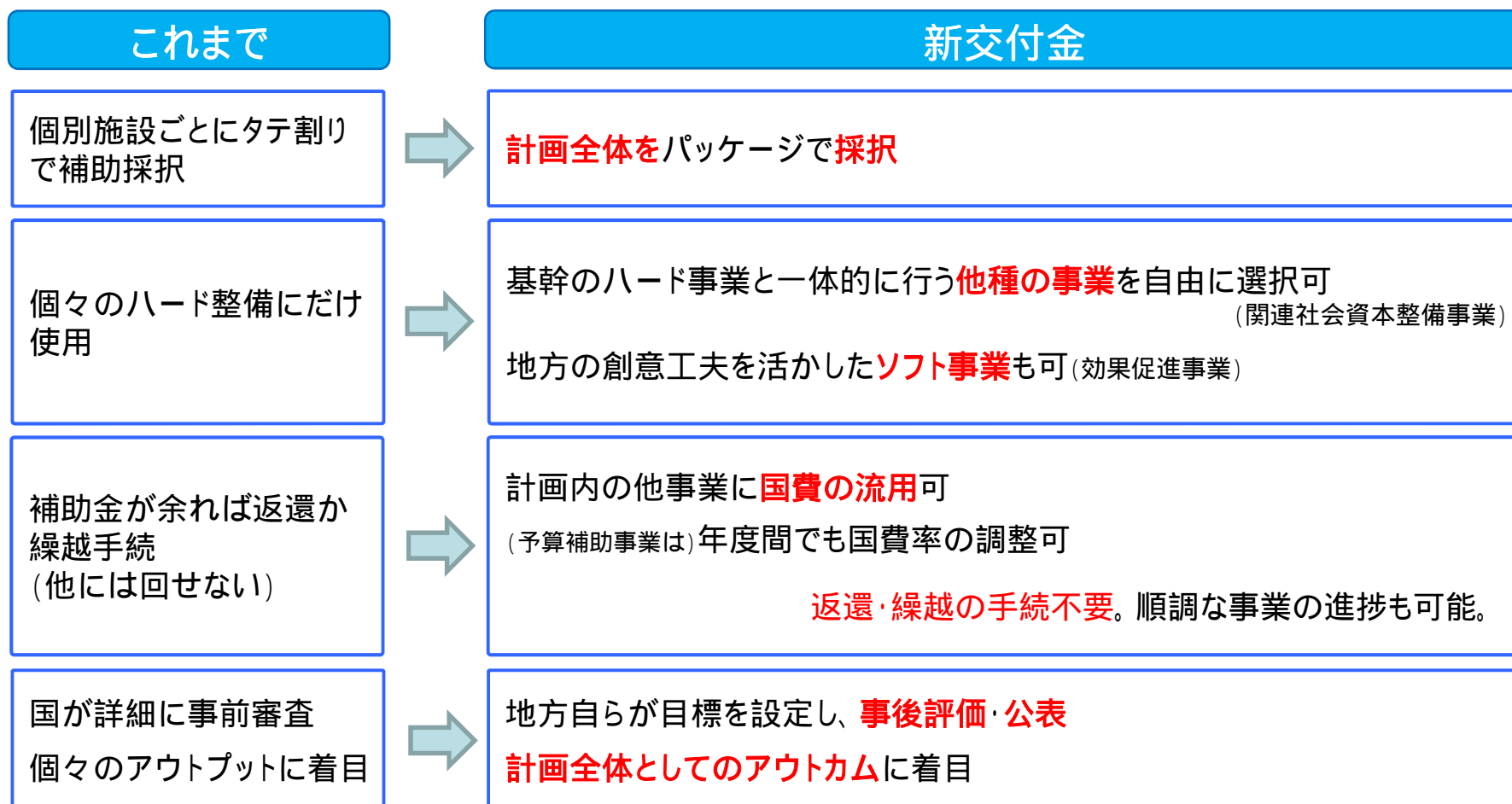
平成 22 年 3 月



# 社会資本整備総合交付金(仮称)の特長

## ポイント

地域が抱える**政策課題**を自ら抽出して整備計画で**明確化**  
 地域が設定した**具体的な政策課題の解決**のため、**ハード・ソフト**の両面から**トータル支援**  
 地方公共団体の**自由度**を高め、**使い勝手**を向上



## 整備計画に掲げる政策目標の達成（成果指標で事後評価）

### 住宅・社会資本の整備

#### 基幹事業

活力創出基盤整備  
（道路、港湾）

水の安全・安心基盤整備  
（治水、下水道、海岸）

市街地整備  
（都市公園、市街地、広域連携等）

地域住宅支援  
（住宅、住環境整備）

#### 関連社会資本整備事業

・ 各種「社会資本整備事業」  
（社会資本整備重点計画法）

・ 「公的賃貸住宅の整備」

### 効果促進事業

計画の目標実現のため  
基幹事業一体となって、基  
幹事業の効果を一層高め  
るために必要な事業・事務  
（ソフト事業を含む）

全体事業費の2割以内

（例）基幹事業が「道路」の場合

- ・ コミュニティバス車両の購入
- ・ アーケードモールの設置・撤去
- ・ 離島航路の船舶の改良（省エネ化等）
- ・ 観光案内情報板の整備
- ・ 社会実験（レンタサイクル、自転車乗り捨てシステム…）
- ・ 計画検討（無電柱化、観光振興…）

# 市街地整備事業・都市公園事業を基幹事業とした整備計画のイメージ(中心市街地の再生)

本資料は整備計画に添付が必要な資料ではない。

## 【基幹事業】

### 都市機能の更新・高度化



市街地再開発事業



道路空間の高質化



土地区画整理事業



にぎわい拠点となる都市公園

## 【関連社会資本整備事業】

### 治水対策・親水空間の創出



浸水被害軽減のための河道整備と遊歩道の整備

## 【効果促進事業】

### 移動の利便性の確保 市民活動の支援



中心市街地の循環バスの整備



オープンカフェ(社会実験)への支援

写真はいずれもイメージ

多様なまちづくりの取り組みを一体的に実施し、  
効果的な中心市街地の活性化を推進